

館山定住 ガイドブック

ど館山に
う暮らす
? 住んで
から

たてやまに
お家を
建てました!

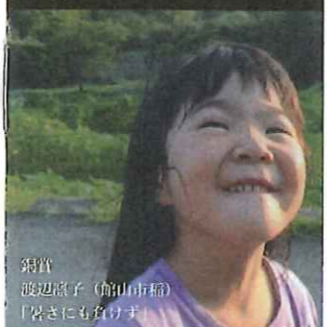
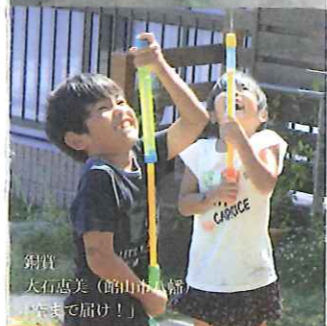
富山潤一郎さんご一家



移住者にお話を伺いました >>> 特集 移住体験談

2015
保存版

館山市広域マップ
& 地区別ガイド付



館山ならではのライフスタイルってなんだろう。

緑ゆたかな里山で深呼吸できること?

それとも、いつだって海が見渡せること?

一年中咲かせている花に心ませ、

時折、息を呑むほど美しい夕日に出会うことだってある。

だけど、ここで暮らす人たちにとって、

それらは日々の生活のおつりみたいなものかもしれない。

館山ならではの本当に幸せなライフスタイルは、

人との関わり合いの中にある。

住む人が互いに支え合い、笑顔を生む力が館山にはある。

だから、わたしたち館山市民は笑顔で呼びかけます。

あたらしく住むまちを探す人へ、

住もうよ! たてやま

これらの写真は「笑顔で移住者を迎えよう」キャンペーンのもと開催された

「たてやまライフフォトコンテスト2015」の入賞作品です。

館山暮らしの楽しさが伝わる笑顔の写真をテーマに81点の応募があり、

館山市長らの審査により14点の作品が選ばれました。



住んでからを
考えるまち

館山定住ガイドブック 2015

発行/館山市 制作/NPO法人おせっかい



館山に住んでから どう暮らす？

富山潤一郎さん

とみやま じゅんいちろう

館山市内に 一戸建て住宅を新築

移住体験談

1

家

族4人で海辺の暮らしを満喫している富山潤一郎さん(40)ご一家。館山へ移住してから5年間ほどの借家住まいののち、じっくり探した理想の土地に念願の家を建てました。移住先で家を建てるということは、その土地に定住することの決意の表れともいえます。富山さん一家がどのようにして館山と出会い、理想の暮らしを手に入れたのか、お話を伺ってみました。



移住者にお話を伺いました

- 1 住まいづくり
- 2 まちづくり研究
- 3 起業

ゆとりある暮らしを求めて

「今の生活には満足していません。思い描いていた暮らしが実現した感じがですね」
そう語るのは館山市内で福祉関係の仕事をしている潤一郎さん。まだ木の香りがする真新しい家で、妻の由紀さんと2人の娘さんの一家4人で館山暮らしを楽しんでいます。富山さん一家が館山に越してきたのは6年ほど前のこと。長女花楓ちゃん(10)がようやく1歳になるうとしていた頃でした。

たことにあります。当時も今と同じ福祉関係の仕事でしたが、責任の重い役職についたことで仕事はさらに忙しくなり、思い返せば働き詰めの生活だったといえます。仕事そのものはやりがいもあり、給与面での不満もなかったとはいえないものの、疲れはたまり、趣味のサーフィンからも遠ざかる一方でした。そこで由紀さんと話しあった結果、子育てのことも考えて、のんびり暮らせる場所に移り住もうということになりました。

気軽にサーフィンを楽しみたいと候補に挙がったのは、湘南や外房など。あちこち見て回るなか、館山市のNPO法人主催の移住体験イベントに参加しました。時々サーフィンで訪れていた館山は土地勘があったこと、イベントを通して移住後の生活がなんとなくイメージできたことなどが決め手となり、移住先を館山市の南端に近い海辺の集落に絞りました。慢性的な人材不足の福祉関係の仕事というところもあり、仕事はすぐに見つかりました。NPO法人の協力を得て、安く貸してくれる家もそれほど時間をかけずに見つけることができたといえます。

「仕事と住む場所さえあれば、どうにでもなると思っていました。細かいことは後で考えればいいや、と。当時はかなり楽天的でしたね」と潤一郎さん。そして平成21年3月、富山さん一

ここに家を建てよう！

家は家族3人で館山市に転居しました。移住を考えて始めてからわずか10カ月後のことでした。

新生活のはじまり

館山での新しい生活は順調にスタートしました。近所の人たちは温かく迎え入れてくれ、職場にもすぐに慣れました。

「正直に言うと給料は3分の2ほどに減りました。妻のパート収入と併せて賅沢しなければどうにか暮らしていける額です。それよりも自由な時間が増えたのがうれしかったですね。時間にゆとりができたことで、家族と過ごす時間も増えまし

た。休日はもちろん、出勤前や仕事帰りにも波がよければサーフィンもできますし」

夫のわがままに付き合う形となった妻の由紀さんも、新生活にはすぐに慣れたといいます。

富山さん一家が館山での生活にすぐに馴染んだのは、潤一郎さんの社交的な性格もひと役買っているようです。もともと人と関わるのが好きだった潤一郎さんは祭りや地域のイベントなどにも積極的に参加。職場以外の人脈を広げていきます。やがて次女の梨花ちゃんも誕生。富山さん一家はこの地域に深く広く根を張っていきます。

そんな富山さん一家が家を建てることを決めたのは、潤一郎さんの転職がきっかけでした。「新しい職場は移住者への理解のある環境で、多忙ではありませんが給与面では安定しました。それまで住んでいた借家も手狭になってきたし、住み替えるなら新しく建てようかな、と」

言うのは簡単ですが、家を建てるにはそれなりの覚悟が必要です。4年間ほど館山で生活してみて、この土地で暮らしているという大きな理由なのでしょう。

こうして家づくりの計画が始

まりました。地元の知人や不動産屋に声をかけ、じっくり探して見つけた土地は、当時の借家から1km以内の場所。土地を決める際、迷いはあっても不安はほとんどなかったといえます。

「土地探しで大変なのは、その土地での生活をどれだけしっかりイメージできるかということ。うちの場合はすぐ近く4年間ほど住んでいたの、周辺地域の予備知識は十分にありました。最終的には古くに開発された別荘地の一画に決めましたが、いい面も悪い面も含めてこの土地での生活をだいたいイメージできていました」

そこで暮らすイメージができれば、家の間取りや設備などにも反映することができます。そしてついに、思い描いたとおりの理想の家が完成しました。

もちろん屋外シャワーやサーフボード置き場など、サーフィンを楽しむための設備も忘れてはいません。

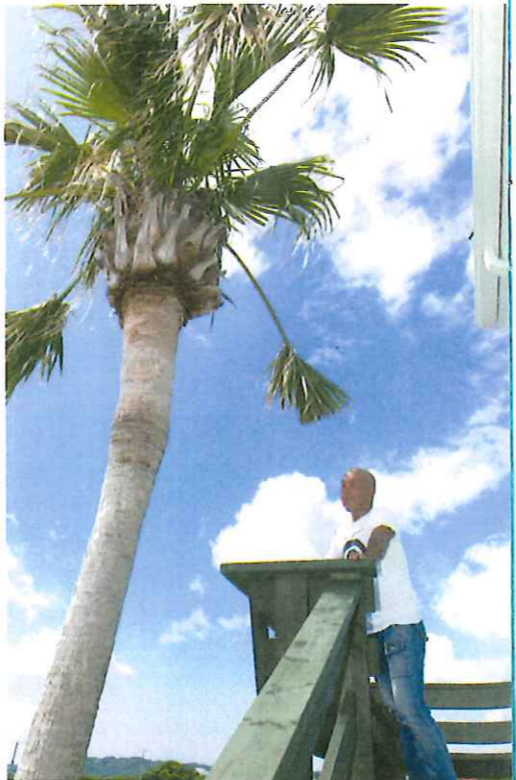
「別荘地とはいっても半分くらいが定住世帯。住民の意見がまとまりにくいという難しさはあるみたいですが、でも、ご近所さんとの関係はまずまず良好。住み心地はいいですよ」

理想の土地に建てた理想の家。そんな新居での生活は快適そのもの。存分に楽しんでいるようです。

わなければいけない日が来るかもしれない。それでも、それらを差し引いても余りある豊かさがあるにはあります。

「子どもたちにとってはここが故郷。ずっと住み続ける覚悟はできています。あとは好きなことをしながら暮らしていければ」と笑う潤一郎さん。富山さん一家の館山暮らしは、ますます楽しいものになりそうです。

右) 景色を眺めながら飲むビールは最高というウッドデッキ。広々としたスペースが確保されており、友人を招いてのパーティーでも大活躍しているそう。知り合いから格安で譲ってもらったヤシの木も潤一郎さんのこだわりのひとつ。



上) 近くのサーフポイントへはバイクで3分ほど。わずかな空き時間でも気軽にサーフィンを楽しめる環境。下左) 間取りや設備には趣味をしっかりと反映。新しい表札に定住の意思が見える。中右) 表札の横には「ただ今サーフィン中」の活活っ気あるプレートが。下右) 長女の花楓ちゃんも新居には大満足。

こうして完成した新居は、パステルグリーンの外壁がいかにも涼しげな平屋建て。玄関回りに大きく張り出した庇や、庭に植えられたヤシの木が、リゾート気分を盛り上げます。開放的なリビングルームでは2人の子どもたちが元気に走り回り、広々としたウッドデッキからは、足もとに広がる田園風景の先に平砂浦の海が見えます。も

移住体験談① 住まいづくり

移住体験談① 住まいづくり